

全国学力・学習状況調査 及び 福岡県学力調査について

令和7年4月17日（木）に第3学年を対象として実施された、「全国学力・学習状況調査（国語、数学、生徒質問紙）」、及び令和7年5月22日、23日（木・金）に第1・2学年を対象として実施された「福岡県学力調査」の結果についてお知らせします。また、この調査結果をもとに本校教育の成果と課題を分析したうえでの、今後の改善・充実のための取組も合わせてお知らせいたします。

1. 全国学力・学習状況調査 福岡県学力調査とは

- 【 調査の目的 】
- ◇ 全国学力・学習状況調査（第3学年対象）

全国学力・学習状況調査は、中学3年生の学力や学習に対する意識などを把握し、全国的な学力の状況や、教育の成果・課題を明らかにすることを目的としています。調査結果は、国や自治体の教育の改善、学校での授業の工夫、生徒一人ひとりの学びの見直しに役立てられます。すべての生徒がよりよく学べる環境づくりに生かされます。

◇ 福岡県学力調査（第1、2学年対象）

福岡県学力調査は、第1・2学年の生徒を対象に、基礎的・基本的な学力の定着状況や学習・生活習慣を把握し、今後の学習指導の充実や個別の支援につなげることを目的としています。結果は学校の指導改善やご家庭での学習の見直しにも活用されます。

【 調査の内容 】	
	実施学年
全国学力・学習状況調査	第3学年
	国語
	数学
IRTテスト	第3学年
	理科
	第1・2学年
福岡県学力調査	第1・2学年
	国語
	数学
	英語（2年のみ）
	英語
	英語

本校では学力状況調査問題を次のようにとらえています。**学力調査の結果は、学力の特定の一部であり、**また単に正答率の高低だけを評価するものでもありません。むしろ、どのような力が身についていて、どのような点に課題があるのかを把握し、今後の授業改善や学習支援の充実に役立てるための大切な資料と位置づけています。

2. 調査の結果及び分析と改善点

【3年生結果】

全国学力・学習状況調査 平均正答率(3年生)		平均 IRT スコア
国語	数学	理科
全国及び県平均に比べて下回っている	全国及び県平均に比べて下回っている	全国及び県平均に比べてやや下回っている。

● 分析と改善点

国語	分析	【成果】 ○資料や機器、スライドを用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する問題で、県・全国平均を上回る正答率であった。 【課題】 ●文脈に即して漢字を正しく使うことや内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることに課題があった。
	改善点	☆言葉の特徴や使い方に関して、漢字や語句などの小テストを通して、基礎・基本のさらなる定着を図ります。 ☆記述の問題や課題作文の演習に取り組む時間を増やし、自分の考えが分かりやすく伝わるように根拠を明らかにして、的確に表現する力を伸ばします。
数学	分析	【成果】 ○確率の単元において2つの事象の確率を比較して解決することができる問題では全国平均・県平均とおおむね同じ正答率であった。 【課題】 ●「数と式」の領域において、素数を選ぶ問題や割合を計算する問題では全国平均・県平均を下回った。
	改善点	☆小テストや単元テストを通して式の展開と因数分解、平方根、二次方程式、関数、平面図形、空間図形などの基礎的な知識や技能の定着を図ります。 ☆二学期に学習する単元において、ICTを活用し、式とグラフの特徴を関連づけて考える問題を多く取り入れます。
理科	分析	【成果】 ○身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかについての項目については、平均を上回っていた。 【課題】 ●化学式や化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことについては課題が見られた。 ●大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定することについては課題が見られた。
	改善点	☆元素記号や化学式などについて、小テストを行うなど反復練習を行い、基礎的な内容を徹底して復習していきます。 ☆化学反応式を作る際に、ロイロノート等を活用して分子モデルで表しながら理解を深めていきます。 ☆柱状図などの生徒がイメージしにくい内容に関しては、動画やアニメーション等を活用して視覚的に理解しやすいようにします。

【2年生結果】

福岡県学力調査 平均正答率(2 年生)		
国語	数学	英語
県平均と比べて やや下回っている	県平均と比べて ほぼ同じ	県平均と比べて ほぼ同じ

● 分析と改善点

国語	分析	【成果】 ○敬語の理解と適切な使用、文章中の重要語句の意味を正しく捉え、内容把握や要旨の整理する問題で県を上回る正答率であった。 【課題】 ●「文節」「副詞」などの文法用語や、「ことわざ」「故事成語」といった語彙知識を問う問題の正答率が低い。読解問題では対応できている一方で、知識を体系的に整理し、使いこなす力が弱いことに課題があった。
	改善点	☆基礎知識の定着を図る反復練習を充実させます。 ☆授業で扱った文法・語彙事項を自分の言葉でまとめ、例文づくりを課すなど、自分で整理する機会を設けます。
数学	分析	【成果】 ○正の数・負の数を用いて平均を求める問題や「最大値・最小値」との関係を理解し、データのばらつきや広がりを読み取る問題で県を上回る正答率であった。 【課題】 ●加減乗除が混ざると符号や計算の順序を誤る傾向がある。係数や符号の扱い、同類項のまとめ方に不安が見られ、計算力の基礎が十分に定着していない。
	改善点	☆誤答分析を通して「どの段階でミスが起こっているか」を生徒自身が意識できるようにするために、計算の結果だけではなく、計算の過程まで意識して解くことができるようにします。
英語	分析	【成果】 ○基本的な英単語や文法事項の理解が進み、英文を読む・書く際の基礎知識がしっかり身についている。特に、文構造を意識して文を作る力が育ちつつあり、県平均を上回る正答率であった。 【課題】 ●考えを整理して発信する力、また相手の質問に応答する力、実践的な運用力の育成が課題となっている。
	改善点	☆「知っている英語を使って伝える」ことを意識させ、成功体験を積みさせていきます。 ☆話す前にメモやキーワード整理を行い、考えを構造化する練習を取り入れます。

【1年生結果】

福岡県学力調査 平均正答率(1年生)	
国語	数学
県平均と比べて ほぼ同じ	県平均と比べて ほぼ同じ

● 分析と改善点

国語	分析	【成果】 ○文章の中心となる内容を的確に捉え、筆者の主張を要旨としてまとめる力が身についている。 また、文章全体の構成を把握しながら、重要な部分を抜き出す力と自分の考えをもつだけでなく、その理由や根拠を明確にし、具体的な事例を挙げて表現できている。思考力と表現力のバランスが取れ、県を上回る正答率であった。 【課題】 ●文の中での主語・述語の関係、文節のつながり、修飾語のかかり方などの理解が十分でなく、文章の構造を正確に捉えることが難しい。 ●修飾語と被修飾語の関係を見誤ることで、文意を誤解したり、文章表現に曖昧さが残ったり傾向がある。
	改善点	☆文節ごとに区切りながら、主語・述語・修飾語の関係を矢印や色分けで示し、構造を視覚的に理解できる活動を取り入れます。 ☆「どの言葉がどの部分を説明しているのか」を考えさせることで、文法知識を文章理解に生かす力をつけていきます。 ☆ピアチェック（生徒同士の読み合い）を通して、「わかりやすい文」「修飾が適切な文」を意識させます。
数学	分析	【成果】 ○起こり得る場合を順序よく整理して調べることができ、論理的な思考力が育っている。問題解決にあたり、見通しをもって考え方を組み立てられる点が大きな成果である。角柱の体積の求め方を理解し、公式を正しく適用できる。計算の正確さや理解度も県平均を上回っている。 【課題】 ●反比例の関係をもとに、一方の数量に対応するもう一方の数量を求める問題で正答率が低い。 ●縮図・拡大図での対応する辺や角の関係が曖昧で、比例関係を用いた判断が難しい。
	改善点	☆2学期で学習するときに、数値表やグラフを活用し、「片方が増えるともう片方が減る」などの数量変化の特徴を具体的に体験させていきます。 ☆日常の例（例：スピードと時間、人数と作業時間など）を使い、反比例の意味を実感的に理解させる場を設定します。

3. 生徒への質問事項について

3年生で実施された、「全国学力・学習状況調査の質問紙」と同じような内容の質問を、令和7年度前期学校自己評価においても実施していますので、本校生徒自身が回答した内容と傾向についてお知らせいたします。
【評価概要】アンケートの質問に対し生徒は4段階で回答※。このうち4と3の回答割合を合計したものを自己評価に記載しています。(※4＝とてもあてはまる／3＝あてはまる／2＝あまりあてはまらない／1＝あてはまらない)

全国学力・学習状況調査		前期学校自己評価（生徒回答）		➤ 「自分には良いところがある」といった自己肯定感は全国・県とほぼ同水準である。友人関係や行事を通して他者に認められる経験を重ねたことが、肯定的な自己評価につながっていると考えられる。今後も互いを認め合う言葉かけや、自己の成長を振り返る活動を継続していきたい。また、「いじめは絶対に許さない」という意思を持った生徒は、非常に高い水準で維持されており、学校全体としての人権教育の定着が見られる。引き続き日常の授業や学級活動で、相手の立場に立って考える学習や道徳的判断力を育む実践を継続したい。 ➤ 授業外学習は全国・県よりやや低い。どの学年も家庭学習習慣の確立が課題である。今後は授業後に放課後学習室の利用者を増やす取り組みや、各教科における適切な課題の設定など、個に応じた学習の定着を図っていきたい。 ➤ 地域の行事への参加については、地域に関心をもつ生徒は多く、全国平均を上回る結果となった。地域行事やボランティア部での活動が意識向上に寄与していると考えられる。今後は、地域の課題を学習のテーマとして扱う探究的な学びを進め、生徒が自分たちの地域に誇りを持ち、社会の一員として行動できる力を育てていきたい。
質問項目	全国・県との比較（3 年生）	質問項目	学校平均	
①自分には良いところがある。	全国・県とほぼ同じ	同左	83.9%	
②将来の夢や目標を持っている。	全国・県とほぼ同じ	自分の希望をかなえるために必要な家庭学習を考え、自学など計画的に取り組んでいる。	68.7%	
③人の役に立つ人間になりたい。	全国・県とほぼ同じ	すすんで地域の行事やボランティアに参加している。	45.1%	
④いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	全国・県とほぼ同じ	同左	97.1%	
⑤学校の授業時間以外に、平日“1 日 1 時間以上”勉強をしている。	全国とほぼ同じ。県をやや上回っている。	同左	55.8%	
⑥地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う。	全国・県を上回っている。	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	68%	